



渥美 貴和さん

Atsumi Kiwa
(梅高)

世の中にはさまざまな価値観がある
自分の考えに責任を持って行動したい

わたしは今、浜松の大学に通っています。専攻する国際化学科では、グローバル化に伴う国際的な文化のつながりや多文化共生などについて学んでいます。国際化に関する知識は、社会人では役に立つものとは思えません。そのため大学入学当初は、自分はここで何をしたいのか、分からなくなってしまうときがありました。そんなとき、信頼していた先生が「ここで学んだことは企業の即戦力にはならないかもしれないけれど、自分の視野を広げたり、別の視点から物事を考えたりできる力になつてくる」と言ってくれました。それを聞いてわたしは、これから学ぶことは無駄ではないと思えるようになりました。その話を聞いてからは、積極的に物事にチャレンジできるようになりました。それにより自分が大きく成長できたと、胸を張って言うことができます。

外での活動にも多く参加しています。多文化共生シンポジウムに参加したり、浜松国際交流協会と企業がタイアップした日本語教室で週に1回、外国人労働者に日本語を教えました。これらの活動に参加することによって、学生ではなく大人として自覚を持たなければならぬという思いも生まれました。そして、机上では学ぶことのできない多くの経験をしました。いろいろな人と接する機会も生まれました。他の大学生はもちろん、企業の人や外国人と一緒に活動する機会もあります。中には苦手と感じる人もいますが、世の中にはさまざまな価値観を持つ人がいて、それぞれが自分の考えに責任を持って行動していることが分かりました。



風間 真莉奈さん

Kazama Marina
(沢間)

「良い先生とは何か？」を追求し続け、
2年後、教壇に立っていたいと思う

高校を卒業し、大学生活を始めてから2年が経とうとしています。わたしは今、大学で教師になるための勉強をしています。教師を目指すとう決めたきっかけ。それは、ある一つの疑問からでした。それは「良い教師とは何か」という疑問です。わたしは今まで、小中高とさまざまな先生に出会ってきました。その中でも、自分を大きく成長させてくれたのは、厳しくて苦手な先生だったように思います。

日々にわたしが話したことを覚えていてくれて、担任の先生が驚くほど、しっかりとわたしの話に耳を傾けてくれました。この授業で子どもたちの変化を感じ取ることができ、とても感動を覚えました。そして、必ず教師になろうと決意を新たにしました。来年度は中学校での教育実習も予定されています。わたしは英語を専攻しているので、次は中学校で英語の授業を担当することになります。今のわたしの英語力では、十分な英語の授業をすることができないと思っています。より一層英語力を高めるよう努力していきたいです。そして実習では、自分が満足できるような授業ができればいいと思います。